

知財ビジネス報告書

参加企業名：株式会社オキシキャリア

参加金融機関名：多摩信用金庫

目次

エグゼクティブサマリ	3
企業概要	4
事業の核となる知的財産	7
現在のビジネス状況	14
知財を活用した経営戦略策定に向けて	22
知財を活用した経営戦略	28

エグゼクティブサマリ

★：重要ポイント

対象企業の概要	■ 奈良県立医科大学発ベンチャー ■ リポソーム型人工赤血球製剤を動物医療向けに開発 ■ 動物の輸血分野における供給不安等の社会的問題の解決を目指す ■ 特許や独自技術に基づく、先端バイオ技術の製品化を推進 ■ 動物病院・屠畜業者・大手動物薬メーカー等と広範なネットワークを構築 ■ 国内外市場への展開を視野に入れた事業戦略を策定	対象企業の目指すべき姿	★ <u>動物医療分野における人工赤血球のトップランナーとなる</u> ■ 高品質・高安全性を兼ね備えた製品を安定供給 ■ 主要動物病院で人工赤血球製剤の普及を実現する ■ 学術的・社会的信頼を獲得し、業界水準となる ■ 革新的な技術・知財でグローバル市場に挑戦し続ける ■ ワンヘルス*に貢献するリーディングカンパニー
本報告書の対象となる知財・無形資産	■ コア特許を保有 ■ 奈良医大とのクロスライセンス契約による知財ポートフォリオ ■ 血液回収デバイス等の新規技術の開発・特許化を推進中 ■ 学術的信頼性* *奈良医大でのヒト用製剤では臨床治験Phase1実施中 ■ 動物病院・屠畜業者等との広範なネットワーク	事業目標	★ <u>3年以内に農水省の動物医薬品としての承認を受け製品化、量産体制を確立後、主要動物病院での普及実現</u> ■ 主要学会・専門誌での実績発表を通じ、ブランド認知度と学術的信頼性を大幅向上 ■ 大手動物薬/医療機器メーカー・その他関連企業・公的機関との戦略的提携を実現し、国内外市場での事業展開を加速 ■ 海外展開のため、現地規制への対応とパートナー開拓推進 ■ 品質保証体制とコスト競争力を両立し、持続的な収益モデルを構築
対象企業の課題	★ <u>承認に向けた臨床治験のための資金調達が喫緊の課題</u> ■ 製造はラボレベルで量産化体制が未整備、原料供給・生産規模に制約 ■ 動物医薬品市場でのブランド認知度・商業的実績の蓄積 ■ 原料供給網が限定的で将来的需要増加時にリスク有 ■ GMP対応や薬事申請、海外規制適合等、専門ノウハウや人材の不足 ■ 高コスト体質であり、薬価のない市場における価格競争力・収益性確保が課題	課題解決の方向性	★ <u>vc等への資金調達戦略を明確化し、財務基盤強化</u> ■ ノウハウ管理の徹底

企業概要

企業概要（As-Is）

事業概要・経営方針

会社名	株式会社オキシキャリア OxyCarrier Inc.
法人番号	6010501044191
所在地	本社：東京都台東区上野三丁目5-2 S-1ビル 小金井ラボ：東京都小金井市緑町2-7-24 メゾン・ネクスト1F 奈良医大拠点：奈良県立医科大学化学部門内（畝傍山キャンパス）
設立	2019年5月
資本金	1,200万円（2025年現在）
代表者	山口智宏
事業内容	医薬品（人工赤血球）の開発、製造、販売
企業理念	人工赤血球を実用化して、「世界の輸血医療を変える」
経営方針	ヒト医療や動物医療を問わず輸血用血液に代わる優れた製品を提供することで、「これまで輸血できずに諦めた命を救う」ことを目指す。 まずは国内での製品化を優先し、将来的には欧米アジアへの進出を目標とする。
ウェブサイト	https://oxycarrier.co.jp/
対象となる知財の概要	人工赤血球（赤血球由来のヘモグロビン）を脂質膜で被覆したリポソーム型の人工酸素運搬体

企業概要（As-Is）

事業実績

- ✓ 動物用の人工赤血球製剤を主力製品とし、現状は上市・販売は未達なものの開発・生産に向けたサプライチェーン構築済み
- ✓ 資金調達より3年後に農水省の承認取得、国内製品化・販売開始を目標とする



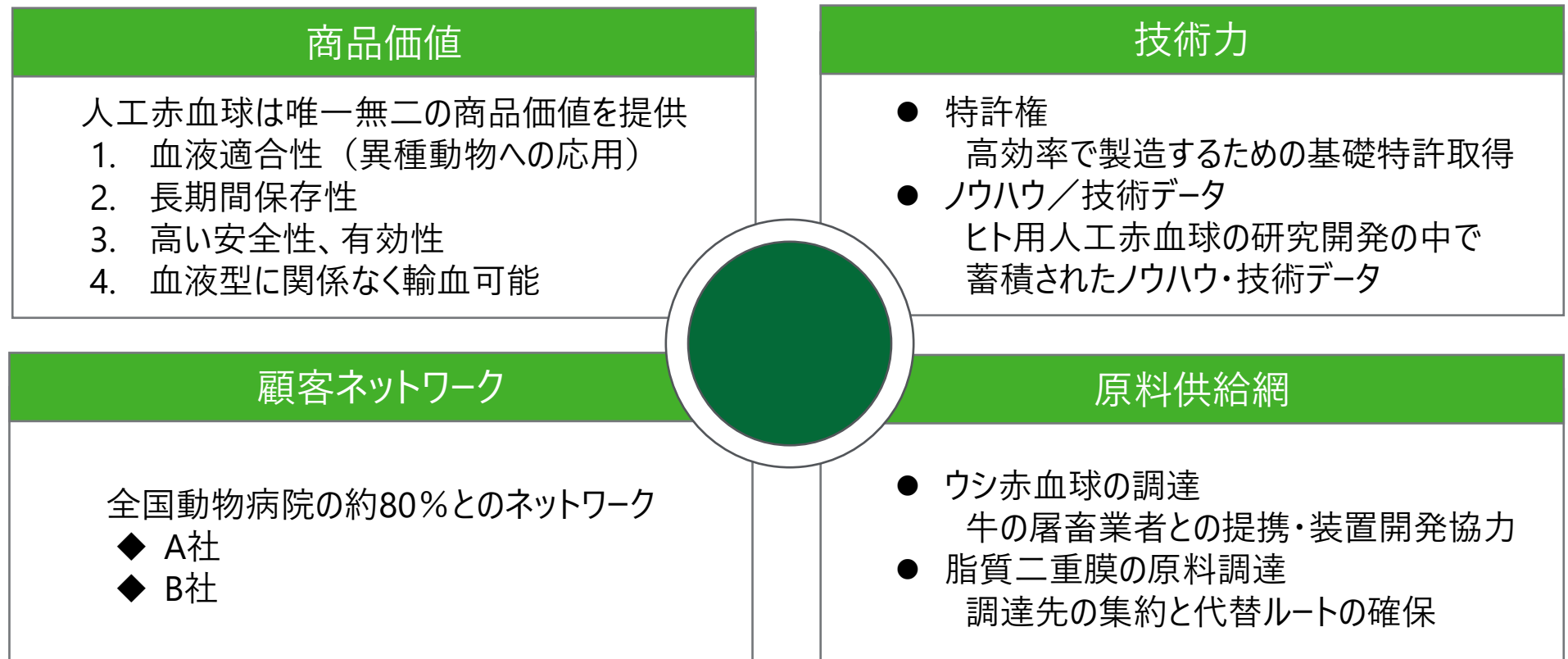
事業概要		製品概要	
主力事業	■ 動物用の人工赤血球製剤の開発、製造、販売	分類	■ 動物用医薬品（生物学的製剤）
主力製品	■ 動物用（ウシHb）の人工赤血球製剤	特徴	■ ウシ赤血球由来ヘモグロビンを脂質膜で包んだリポソーム製剤 ■ 血液とほぼ同等の酸素供給能、室温で約2年間保存可能 ■ 異種動物に対する高い適合性（ウシHb製剤→イヌ・ネコ）
主要顧客（見込み）	■ 一般動物病院 ■ 二次診療動物病院 ■ 獣医系大学 ■ その他獣医医療関係機関	対象	■ 緊急時、有事、非常時の即時対応、備蓄用
売上	■ 開発段階のため、年商無し	適応	■ トリガー値を下回る症例(失血、虚血、貧血など酸素不足、Hb不足) *Hct値イヌ20%以下、ネコ15%以下、総出血量15ml/kg以上
社内体制	■ 社長を中心に奈良医大との連携による製品開発	価格	■ 100ml 万円
開発パイプライン	■ 資金調達より3年後に農水省の承認取得、国内製品化・販売開始を目標	有効性	■ ラットの出血性ショックモデル(50%脱血)での蘇生効果を確認 ■ マーモセットの自然発症の重篤な貧血の改善効果を確認
サプライチェーン	■ 開発・生産：屠畜業者・外資系脂質メーカーと業務提携契約/NDA締結済み ■ 臨床治験：臨床治験・薬事申請はCRO委託 ■ 販売：直販/販社（医薬品卸業者、動物医薬品メーカー）活用	安全性	■ ビーグル犬への少量(200ml)投与後、微熱・軽い下痢などを確認 →症状は速やかに消失、その他重篤な副作用なし

事業の核となる知的財産

事業の核となる知的財産

事業への貢献内容

- 当社は、以下の知的財産を活用することで、世界初の安全性が高く安定供給可能な動物用人工赤血球の事業化に向けて、世界をリードしている。



事業の核となる知的財産

保有知財の分析・評価（商品価値）

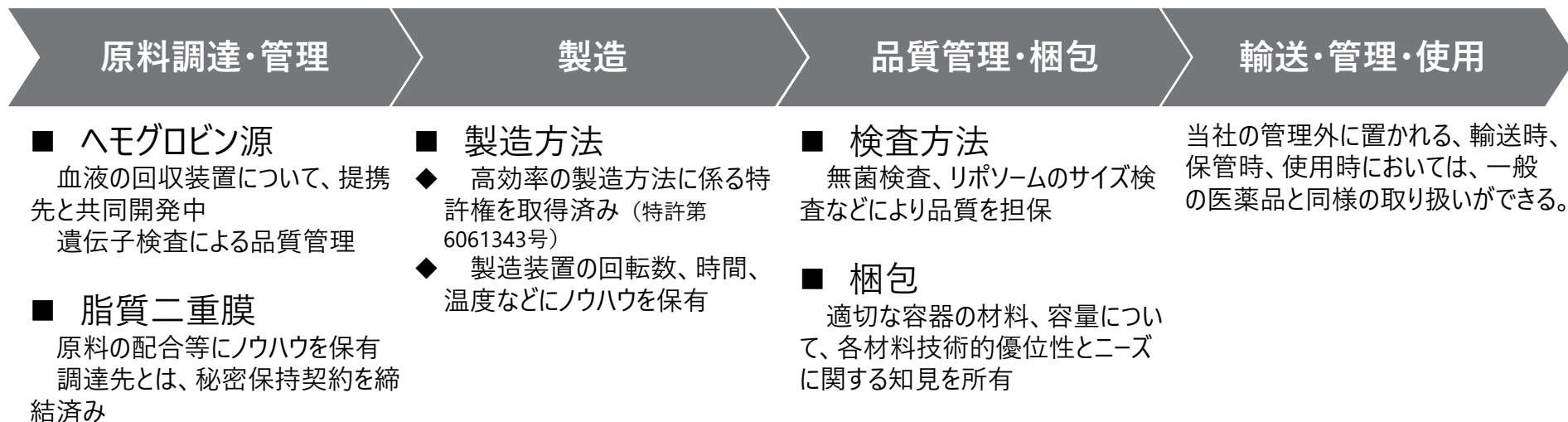
- 動物用人工赤血球は唯一無二の商品価値を提供するものであり、それ自体が**高い商品価値**を持つものである。



事業の核となる知的財産

保有知財の分析・評価（技術力）

- 各過程において、当社独自の特許権、ノウハウによる他社模倣品対策が講じられている。



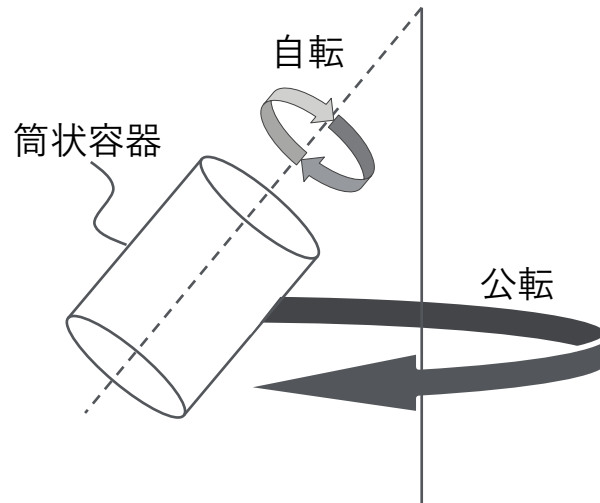
特許権とノウハウの両面からの保護により、仮に競合他社が当社の開示技術を用いたとしても当社が実現している高効率な製造プロセスを再現することはできない。
よって、当社は市場が求める価格帯で人工赤血球を供給できる唯一の企業となる可能性がある。

事業の核となる知的財産

保有知財の分析・評価（技術力）

- 現状、当社特許権と同等の効果が得られる代替技術は発見されず、特許権による参入障壁構築が構築されている。

当社特許（特許第6061343号）の内容



◆ 構成要件

ヘモグロビンに所定量の脂質（複合脂質粉末）および水を筒状容器内に収容し、筒状容器をその中心軸周りに自転させると共に所定の公転軸周りに公転させて筒状容器内の収容物を混練する。

◆ 効果

内包効率向上（ヘモグロビンをリン脂質小胞体に効率的に内包させる）。従来技術では内包効率が20%であったが、最大85%まで向上。製造効率が事業の採算性が確保できる程度まで改善された。

ヘモグロビン（物質）を小胞体に効率的に内包させることを課題とする特許出願を調査したところ、下記の出願人からの文献が発見された。

- ・ テルモ株式会社
- ・ コニカミノルタエムジー株式会社（現コニカミノルタ株）
- ・ 科学技術振興事業団
- ・ 日本油脂株式会社
- ・ 財団法人生産開発科学研究所
- ・ 花王株式会社

これらの文献に記載された発明による効果（内包効率）は当社特許には及ばず、現状、当社特許権と同等の効果が得られる代替技術は発見されない。

調査範囲

特許分類：A61K38/42 +A61K38/16 +C07K14/805 +A61K9/127^ +A61K47/24

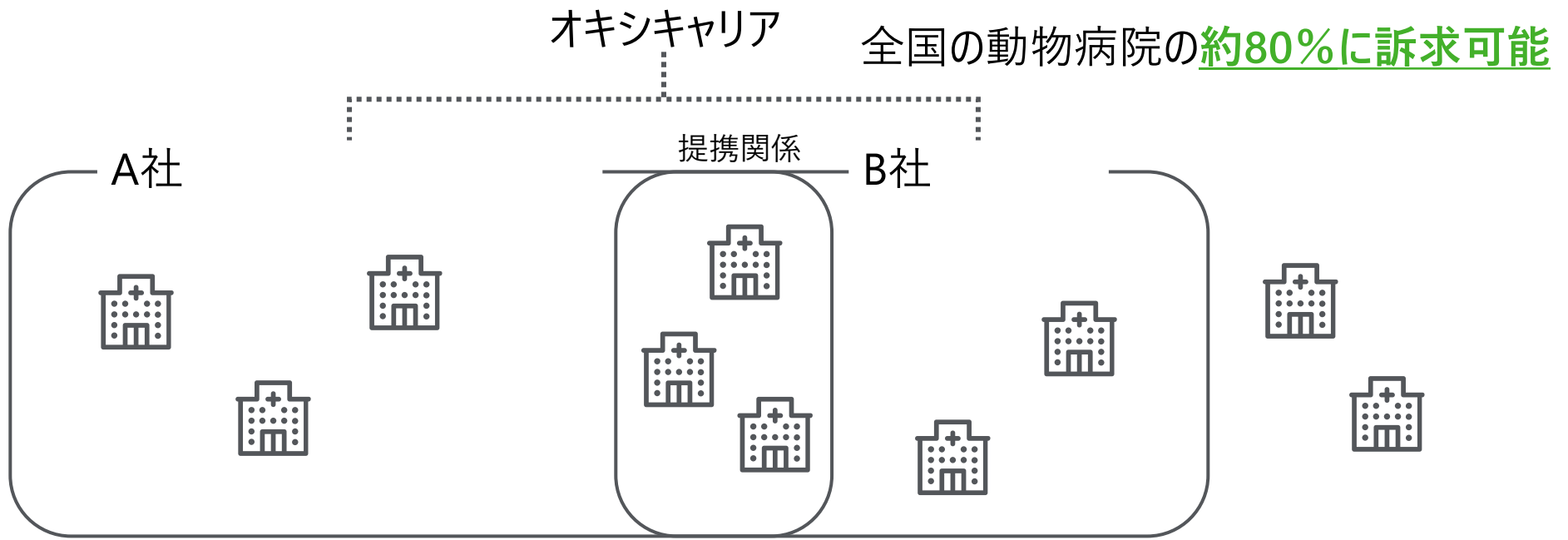
キーワード：人工 + 合成 + 模倣 + 代替 + 代用 + 疑似

赤血球 + 血液 + ヘモグロビン + エリスロサイト + レッドセル + 酸素運搬 + 酸素キャリア + 血球
[[回収 + 内包 + 封入 + 封止 + 合成 + 形成] *率]W3

事業の核となる知的財産

保有知財の分析・評価（顧客ネットワーク）

- A社及びB社は、全国の動物病院の80%とのネットワークを有しており、両社との提携により人工赤血球を訴求することができる可能性がある。
- 当社の代表とB社の代表は同一人物であり、A社とB社は既に提携関係にあるため、当社と両社との提携の可能性も高い。

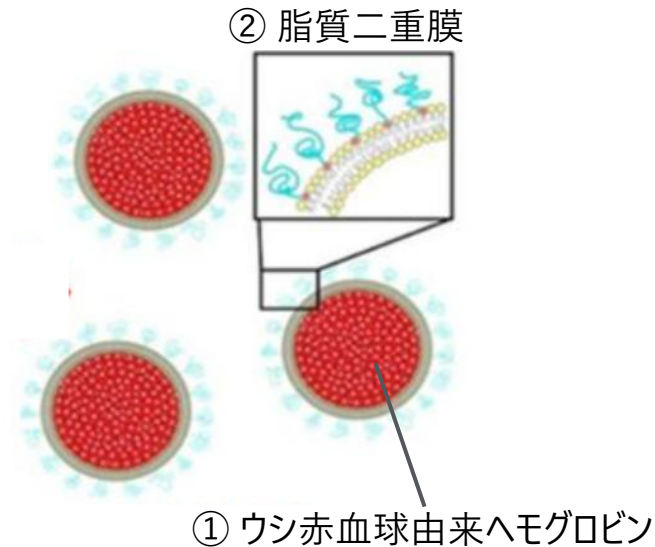


..... 提携関係に関しては構築予定

事業の核となる知的財産

保有知財の分析・評価（原料供給網）

- 人工赤血球の原料である①ウシ赤血球、②脂質二重膜原料の安定した供給網を有する。



人工赤血球の概念図

① ウシ赤血球

屠畜業者との提携により、人工赤血球200L／月分の安定した原料を確保済み。

屠殺時の血液の収率向上、安全性確保が重要であり、提携業者と血液回収装置に関する研究開発を進行中。

② 脂質二重膜原料

4つの脂質二重膜原料の調達先を1社（外資）に集約。

原料配合等のノウハウ流出を防止するために調達先とは秘密保持契約を締結済み。

供給停止リスク分散のため、他の供給ルートも確保済み

現状のビジネス状況（As-Is）

現状のビジネス状況 (As-Is)

事業環境分析 (開発状況)

人工赤血球開発の展開

- ✓ 早稲田大学：ヒト人工赤血球の優位性
(20年以上にわたる研究成果)

製造法の確立 (特許6061343号)

- 精製ヘモグロビンと脂質原料の混合技術
- 内包したHbの毒性を完全遮断
- 赤血球に匹敵する酸素供給能
- 体内安全性

詳細な物性評価

- 生体適合性 (補体活性等)
- 保存中、血液循環中の安全性
- マクロファージ内での分解性、代謝性

多数の 動物試験データ

- 動物での臨床的有効性・安全性を示唆

ヒト医療市場

- 献血事業の存在：人工物不要論
- 医薬品メーカーの輸血事業参加への消極性
- 製品原料となるヒト血液の安定確保不安

ヒト市場と比べ、
有望市場

動物医療市場での事業展開が最適

イヌやネコ等のペット以外の
動物種にも対応可能

動物医療市場

- 献血事業の存在なし：血液代替物待望論
- 動物医薬品メーカーも興味を示す
- 製品原料となるウシ血液の安定確保可能
- 大きな世界市場

多数の動物試験データが流用可能

【参考】

ヒト用(ヒトHb)人工赤血球の動物試験成績（概要）

有効性と安全性：ヒト人工赤血球の動物試験データからの類推

異種動物での血液適合性：
ウシHb-人工赤血球投与の安全性を示唆

有効性データ

1	ラット90%交換輸血	血液維持、赤血球と同等の酸素運搬
2	ラット50%出血性ショック蘇生	出血性ショック蘇生に有効
3	ウサギ40%出血性ショック(反復出血)蘇生	サイトカイン過剰生産の抑制
4	ビーグル犬50%出血性ショック蘇生	中型動物での大量・急速蘇生
5	ラット体外循環(人工心肺)充填液	高次脳機能を改善
6	ラット制御不能出血モデル蘇生	生存期間の延長
7	ラット脳梗塞モデル	梗塞巣の拡大を抑制
8	マウス摘出小腸灌流	37°C, 2hr灌流で組織構造を維持
9	ハムスター有茎皮弁虚血部位酸素体	側副経路を経由した酸素輸送を確認
10	マウス担がんモデル	腫瘍重量の減少
11	ラット切断下肢灌流モデル	8時間灌流後に再接着
12	ラット妊娠中毒症モデル(胎盤の虚血)	胎児への酸素供給増による体重増
13	鶏単純性血管腫モデル	色素レーザー照射法の標的
14	ラット ¹⁵ O結合体投与によるPET診療	脳梗塞領域のイメージング
15	ラット出血性ショック虚血再灌流モデル	CO体投与による再灌流障害の提言
16	ラット肺線維症モデル	CO体投与による抗炎症・抗酸化効果
17	ラット潰瘍性大腸炎モデル	CO体投与による抗炎症・抗酸化効果

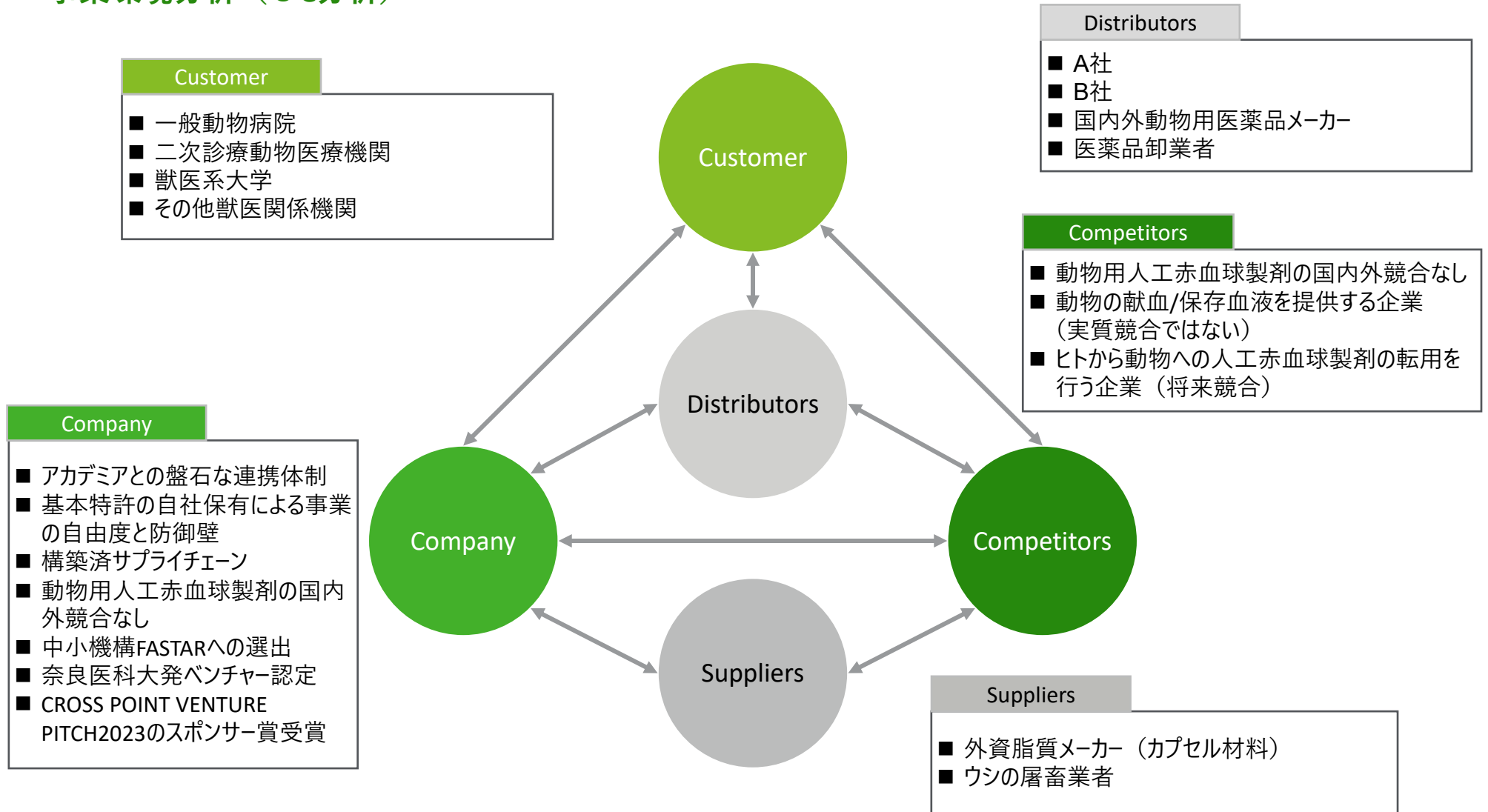
安全性データ

1	ラット/ブタ投与、ヒト血液混合 血液適合性	血小板、補体、キニン系活性なし
2	ラット単回投与、40%血液希釈 一般毒性	血液学的、血液生化学検査、組織病理に不可逆的変化はなし
3	ラット反復投与(10mL/kg/日×14日間)	循環血液量の2.5倍を投与
4	ラット脳内出血モデル	肺組織修復過程に影響なし
5	ラット、マウス、ウサギ体内動態	代謝過程の解明、蓄積性なし、ヒトでは半減期が約3日と予測
6	ラット肝臓疾患モデル体内動態	肝臓疾患でも代謝・排泄される
7	ラット免疫系に与える影響とその機序の解析	肝臓の細胞性免疫を一時的に抑制
8	ハムスター皮下微小循環動態	血管収縮・血圧亢進なし
9	ビーグル犬40%出血性ショック蘇生長期保存	1年間、臓器障害・成長阻害なし
10	カニクイザル単回投与 一般毒性	安全性の確認
11	ラット妊娠モデル単回投与 一般毒性	安全性の確認、胎盤の通過はない
12	ラット高脂血症モデル単回投与 一般毒性	安全性の確認、代謝過程に支障なし

ビーグル犬での有効性と安全性：犬での効果を示唆

現状のビジネス状況（As-Is）

事業環境分析（3C分析）

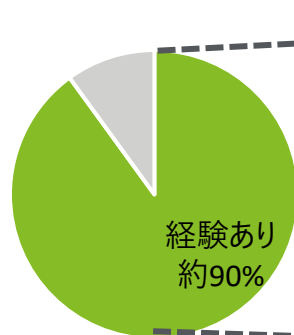


現状のビジネス状況（As-Is）

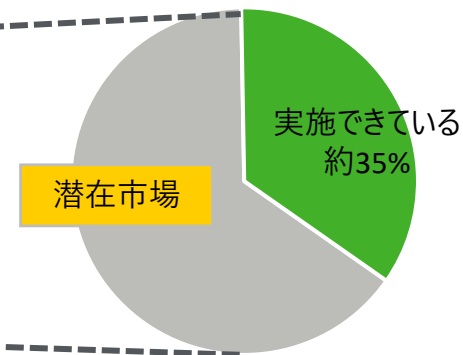
事業環境分析（顧客ニーズ分析*） *1次病院、2次病院、大学動物医療センターの約350施設への当社アンケート

輸血の現状

輸血が必要な場面の経験有無

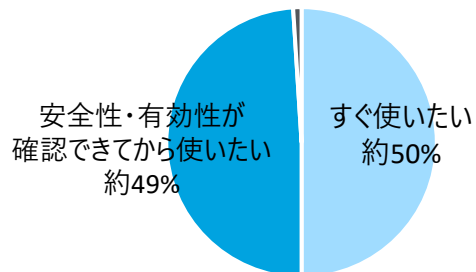


輸血の実施有無



人工赤血球への期待

人工赤血球に対する利用意向



ほぼ100%が使いたいと回答

使用目的

「緊急の症例」60-75%
その他、慢性貧血など

顧客ニーズ

【主要顧客=動物医療機関】
緊急症例時の輸血時における
血液（=人工赤血球）のニーズあり

現状のビジネス状況 (As-Is)

SWOT分析

強み	■ 高度な専門知識と技術力：リポソーム型人工赤血球に関する独自技術 ■ 学術的信頼性・実績：奈良医大*との共同開発や臨床治験実績、クロスライセンス契約による特許保有 *ヒト用人工赤血球の臨床治験実施中であり、当該分野における実用化を先端的に進めている ■ 特定ニーズへの特化型製品開発力：動物医療における輸血の選択肢拡大を目的とした人工赤血球製剤の開発 ■ 関係先との信頼関係：屠畜業者・脂質メーカー・動物病院・大学病院・大手動物薬メーカーとのコネクション
弱み	■ ブランド認知度・市場プレゼンスの不足：設立年数が浅く、学術・商業的な実績・知名度が十分でない ■ 資源・組織規模の制約：小規模な製造拠点（奈良医大ラボレベル）、生産量・設備・人材・資金力の制約 ■ 規制対応・薬事申請ノウハウの不足：医薬品開発・申請プロセスに必要な専門知識・申請経験が限定的、外部専門家の活用が不可欠 ■ 高コスト体質・利益圧迫リスク：GMP原料・無菌環境の整備等でコスト高騰。動物用医薬品は薬価がなく、価格競争力の確保が難しい
機会	■ 動物用医薬品市場の拡大：動物医療の高度化・動物医療への関心増加、動物用輸血製剤の需要拡大 ■ 海外市場展開の可能性：欧米・アジアなどでの動物用輸血医療への関心、現地メーカー・代理店からの製品販売希望 ■ 外部提携・ネットワーク強化：大手動物薬メーカー・医療機器メーカー・その他関連企業・公的機関との協業・連携による事業拡大チャンス
脅威	■ 競争激化・技術模倣リスク：国内外の競合企業による人工赤血球技術の後発開発、知財戦略の不備で模倣・参入リスク増大* *リスクはあるが、ノウハウがあるため他社による技術の模倣は実質不可能 ■ 医薬品規制の強化・申請遅延リスク：国内外で薬事規制が厳格化、臨床試験・申請プロセスの遅延リスク、規制適合コストの増加 ■ 原料供給・品質管理リスク：屠畜業者・原料メーカーの供給不足や品質ばらつき、感染症混入・リコール等の事業継続リスク ■ 資金調達困難：動物医療市場規模の評価が難しく、VC等投資家の関心が限定的。資金調達の遅れが事業拡大を阻害

現状のビジネス状況（As-Is）

現状の事業課題（1/2）

青字は重点項目

開発の課題

最重要課題：動物用医薬品としての承認が最大の課題であり、承認に向けた臨床治験のための資金調達が喫緊の課題である

- 治験設計：効率よく治験を実施するためにCRO等と連携した治験設計が必要
- 血液回収デバイスの開発・知財保護：ウシ血液の安定・安全な大量回収が不可欠であり、効率的な原料取得・感染リスク低減のため、独自デバイスの開発と特許化が急務
- 副作用対策（Hb）：過去の競合製品も安全性課題で市場撤退例があり、十分な安全性が無ければ承認・普及が困難なため、安全性データの蓄積と副作用提言技術の開発が必要
- 製造プロセス・品質管理の明確化：GMP基準・無菌化対応の品質保証体制が未整備。品質管理が不十分だと製品リコールや承認取り消しなど重大な事業リスクに直結するため、工程・品質管理の整備・標準化が必須
- ノウハウ管理：ノウハウ管理体制が未構築。VCや金融機関に対し、リスク対策の説明ができるよう資料への落とし込みが必須

生産の課題

- 原料供給の安定化・拡大：現状は屠畜業者・脂質メーカー1社依存で供給不足の懸念有。商業化後の需要増に対応するため、供給網の多元化・提携業者の拡大・自治体との連携強化が必要
- 原料（血液・脂質）の品質・安全性確保：安全性担保が不十分だと社会的信頼・製品品質が損なわれるため、健康なウシの選定・感染症検査体制の強化および検査結果の管理が必要
- 量産化計画策定：現状の製造は奈良医大ラボレベルでの内製・少量生産にとどまっており、需要増加時を見据えた生産方針*が未策定のため早期検討が必要
*想定される生産方針の例：①自社完結、②大手委託、③ライセンスアウト、④大手委託→ライセンスアウトのハイブリッド
- 開発遅延：製造方法変更時には非臨床治験等のやり直しによる開発遅延リスクあり
- 生産コスト管理：動物用医薬品に薬価がなく、GMP原料のコスト高騰、保証費用などの負担増により収益悪化に直結する。量産体制への投資とコストダウン施策が不可欠
- 品質管理・無菌化対応：製造工程全体の無菌化・規格化が未整備。リポソームサイズ管理・無菌検査体制の整備が必要

現状のビジネス状況（As-Is）

現状の事業課題（2/2）

マーケティング の課題

- ブランド認知度・信頼性向上：設立年数が浅く、認知度が不足なため知名度・実績不足で初期顧客・提携先獲得が進みにくい可能性有。学会発表・成功事例の創出が必要
- 価格戦略・薬価設定：動物用医薬品は薬価がないため、価格競争力・付加価値訴求が重要。
- 販売網・提携戦略：自社単独では資源が限られるため市場浸透が遅い。国内外の大手動物薬メーカー・医療機器メーカーとの提携が必須
- 海外展開：現地規制・現地パートナー開拓が未整備。海外進出体制の早期構築、欧米・アジア等の規制調査と現地パートナー探しが必要
- 専門人材の不足：独自のマーケティングでは効率が悪く上市の遅延リスクがある

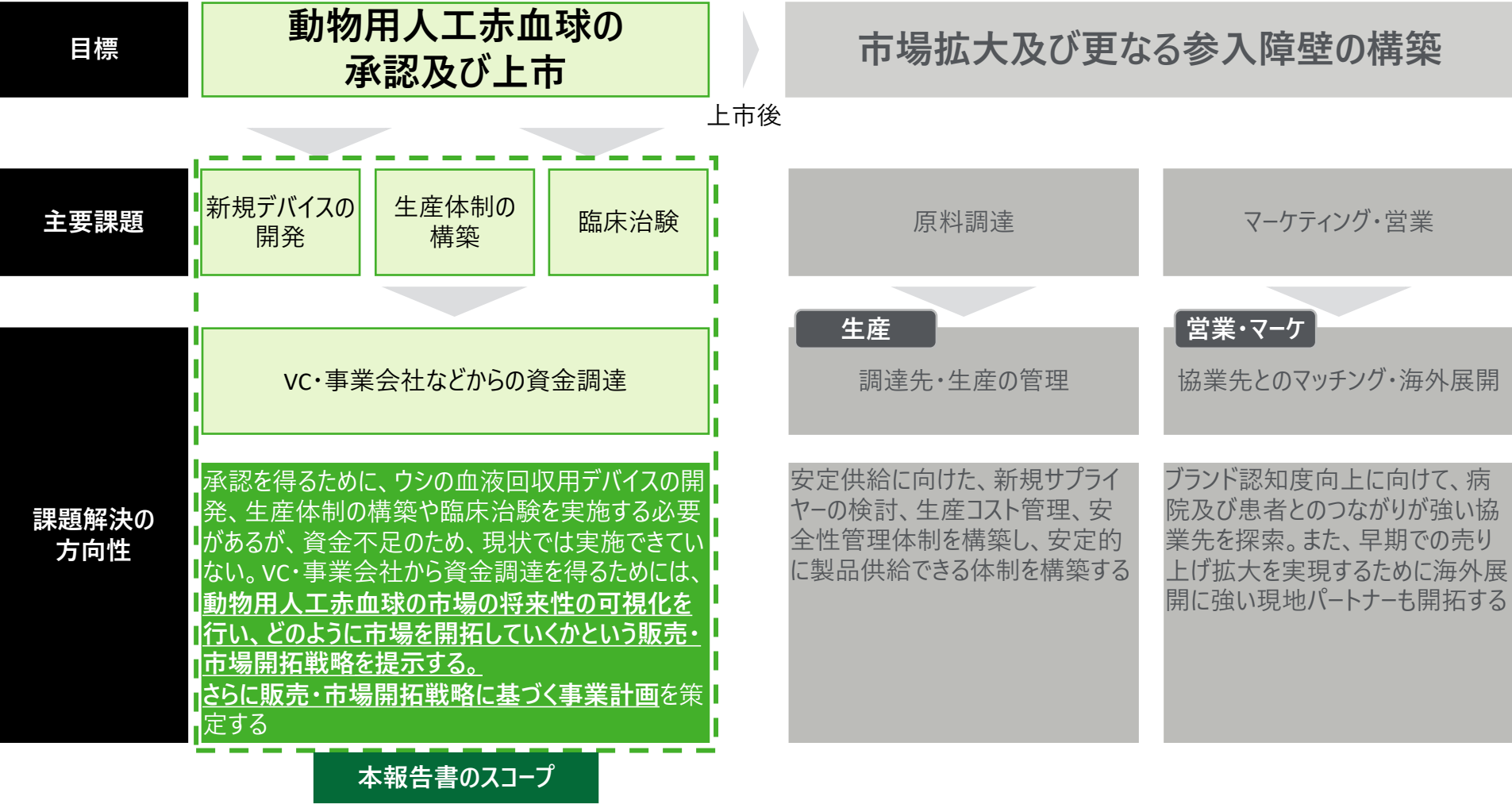
営業の課題

- 営業ターゲットの選定：有望顧客層への営業方法・優先順位が不明確。動物病院・代理店・製薬企業など、優先顧客層の絞り込み等のターゲット戦略とネットワーク活用が必要
- 提携交渉・契約条件：独占使用权・ライセンス料・生産委託条件・ライセンスアウト等の条件が未確立。条件等の明確化と契約交渉力の強化が重要（将来的な課題）
- 海外展開営業：海外メーカー・代理店との提携交渉が不十分。現地規制調査とパートナー連携の強化が必要（将来的な課題）
- 専門人材の不足：独自のマーケティングでは効率が悪く上市の遅延リスクがある

知財を活用した経営戦略策定に向けて（To-Be）

知財を活用した 経営戦略策定に向けて（To-Be）

課題解決の方向性（最重要課題）



知財を活用した 経営戦略策定に向けて（To-Be）

その他課題解決の方向性・事業目標（開発）

青字は重点項目

課題

- 治験設計：
- 血液回収デバイスの開発・知財保護：
- 副作用対策：
- 製造プロセス・品質管理明確化：
- 臨床治験・薬事申請の最適化：
- ノウハウ管理：

開発

課題解決の主な打ち手

- 過去の湯構成・安全性データを活用した治験設計をCROと検討
- 工程の標準化・効率化。奈良医大の知見を最大限活用
- 血液回収デバイスの屠畜業者との共同設計・開発。知財取得による競争優位の確立
- 安全性は国内外の主要学会でのデータを積極発表し、学術評価を高める
- 臨床治験方法・薬事申請プロセスの早期決定。外部専門家・規制当局との協議による申請戦略の明確化
- ノウハウ管理体制の構築

知財を活用した 経営戦略策定に向けて（To-Be）

その他課題解決の方向性・事業目標（生産）

青字は重点項目

課題

- 量産化計画策定：
- 原料供給の安定化・拡大：
- 原料の品質・安全性確保：
- 生産コスト管理：
- 品質管理・無菌化対応：

生産

課題解決の主な打ち手

- 量産化計画の策定
- 量産体制を見据えた製造方法の決定
（奈良医大に準じた製造方法からの変更による治験やり直し発生も踏まえた検討など）
- 量産化計画・体制を踏まえた製造拠点の規模拡大・新拠点設置
- 提携屠畜業者・脂質メーカーの拡大。原料供給網の多元化による安定供給体制の構築
- 農工大（原料になる血液の品質チェックのための内部検査）等との連携による内部的な安全性担保
- コスト構造の見直し。GMP原料のコスト圧縮に向けて複数サプライヤーとの価格交渉・混合工程の効率化
- 無菌環境の構築、リポソーム規格の無菌検査体制導入。外部機関との連携による品質管理プロセスの標準化

知財を活用した 経営戦略策定に向けて（To-Be）

その他課題解決の方向性・事業目標（マーケティング）

課題

- ブランド認知度・信頼性向上：
- 価格戦略・薬価設定：
- 販売網・提携戦略：
- 海外展開：
- 専門人材の不足：

マーケティング

課題解決の主な打ち手

- 国内外の主要学会・専門誌で積極的な成果発表により、学術的評価とブランド認知度を高める
- 大手動物薬メーカー・医療機器メーカーとのライセンスアウト・販売提携等の戦略的提携。販売網・薬事申請ノウハウの活用により開発と市場浸透を同時加速
- 価格戦略は、供給安定・安全性・革新性を訴求し、プレミアム価格設定も検討
- 海外市場・競合分析チームの構築。ネットワーキング活動の強化。現地パートナー開拓と連携推進
- 専門人材の採用・育成。外部コンサルやアドバイザーの活用

知財を活用した 経営戦略策定に向けて（To-Be）

その他課題解決の方向性・事業目標（営業）

課題

- 営業ターゲットの選定：
- 提携交渉・契約条件：
- 海外展開営業：
- 専門人材の不足：

営業

課題解決の主な打ち手

- 動物病院営業は、A社やB社等既存ネットワークを活用し、初期導入事例を作ることで拡大展開
- 動物医薬品メーカー・代理店との提携交渉は、独占使用権・ライセンス料・委託生産・ライセンスアウト等の条件提示を明確化
- 海外展開は現地規制・特許・製造拠点の課題を整理し、現地パートナー開拓

知財を活用した経営戦略（To-Be）

知財を活用した経営戦略（To-Be）

販売・市場開拓戦略（=市場の将来性の可視化）

知財を活用した経営戦略（To-Be）

承認までのスケジュールおよびアクションプラン（=販売・市場開拓戦略に基づく事業計画*）

*事業計画の詳細については後述P30以降参照

フェーズ		上市3年前	上市2年前	上市1年前	上市
		治験準備	治験生産および実施		実用生産
実施事項	承認申請	■ 生産、品質管理体制の構築及び施策 ■ CRO委託による臨床治験及び申請準備	■ 治験薬の製造 ■ 臨床治験の実施		■ 承認 ■ 医薬品製造販売業取得
	販売・市場開拓	■ 価格戦略の策定 ■ 協業パートナーの検討(A社、B社等)	■ 協業パートナーの決定 ■ 価格および協業パートナーを踏まえたビジネスモデルの策定 ■ マーケティングプランの策定		■ マーケティングプランの実行 ■ 海外展開に向けたパートナー探索
	実施のポイント	■ すでに有している有効性、安全性のデータを活用して、なるべく低コスト及び短期間での臨床治験となるようにCROとプロトコルを検討 ■ シナジーを見込めるパートナー(ペット保険会社等)を検討	■ 量産を見据えたコスト感を整理する必要があり、調達先との交渉や将来的な調達先の追加も見据えてサプライチェーンを検討する必要がある ■ 従来の輸血よりも高価格のため、病院向けには供血動物の管理コスト等を踏まえた人工赤血球のメリット、飼い主向けには安全性や動物愛護といった観点からの啓蒙が必要		■ 上市後は一気に市場拡大を狙うべく、全国の病院にアプローチできるチャネルを活用 (A社、B社等に加え、動物用医薬品メーカー、ペット保険会社等)
必要資金(千円)					

1. 納品された報告書についての著作権は特許庁に帰属しておりますが、特許庁ウェブサイト（知財金融ポータルサイト含む）で公開された報告書を他者へ開示・掲載等される場合には、特許庁ウェブサイトの利用ルールに則り、特許庁ウェブサイト（知財金融ポータルサイト）からの引用である旨を示した上で使用することが可能です（※1）。

また、対象の金融機関・企業が本事業の目的や趣旨の範囲内で利用する場合（※2）には、著作権が特許庁に帰属することを明記した上で、利用できますが、報告書の非公開部分（特許庁ウェブサイトで公開していない部分）は、原則、不特定多数への開示はお控えください。

ご利用にあっては、事前に特許庁へのお問合せをお願いいたします。

※1：特許庁ウェブサイト「1. 特許庁ウェブサイトのコンテンツの利用について」（知財金融ポータルサイトへの掲載資料にも準用）

[このサイトについて](#) | [経済産業省](#) [特許庁](#)

※2：本事業の目的は、企業が自社の強みとその事業上の位置づけを金融機関等のステークホルダーに適切に示し対話促進につなげることです。例えば、自機関・自社内での報告書の共有、自社の強みのステークホルダーへの開示等は目的の範囲内となりますが、知財の権利譲渡や損害賠償額算定等における価値評価は本事業の目的範囲外となります。

2. 報告書の内容は納品時点の情報であり、ヒアリング時点の内容における認識違い・誤りや、その後の状況の変化により、報告書の内容と実際との間で違いが発生する可能性があります。また、個別の報告書の内容については、特許庁の公式見解ではなく、また特許庁が責任を負うことはありません。
3. 納品時点の内容に誤りがある場合、特許庁は受託事業者に対して修正等を求め、これに基づき受託事業者は報告書作成者に対して修正等の対応を求めることができます。
4. 個別の報告書に対する問い合わせについては、2026年3月までは受託事業者が対応いたします。また、2026年4月以降は、委託元である特許庁が対応いたします（ただし、報告書の内容の詳細については対応しかねる場合がございます）。